

しいのき



○1998年5月14日 撮影

しいのきの10年

名誉館長

三 隅 治 雄

椎の木は、中野区のシンボルです。そして、その椎の巨木が、資料館の東側の、旧山崎家の庭園にそそり立っています。樹齢六、七百年とか。遠く、坂東武者軍団の騎馬が駆け巡った広漠の原野の時代から、開拓、そして江戸近郊農村社会の成立、さらに、都市化への変転と、その推移を凝視しつつ年輪を増していった歴史の生き証人です。当「資料館だより」の紙名とした理由でもあるのですが、この10年、その歴史の名木も、さすがに体力の衰えを隠せず、樹医の治療を受けながら「養生」する身となりました。その間、居処とした山崎家は、館の創設・運営に貢献して下さった千枝夫人のご逝去があり、由緒ある茶室の修復などが資料館の手に委ねられています。同家は江戸時代の庄屋家ですが、こうした歴史遺産は、激しい社会変動の蔭に消え去りがちです。それを常時見守り、保存・再生の方策を講じるのが当館の使命であり、今後の努力もそれにかかっています。椎の木の緑の、老いてなお美を示す姿を窓越しに見るのが、日々の喜びです。



▲山崎家茶室・書院現状（南側から見る）

歴史ある建造物の復元

（茶室・書院・客間）

山崎記念中野区立歴史民俗資料館
館長 香西 清

当館に隣接する敷地には、区文化財に指定されている「榎の木」があります。樹齢600年を超えていると言われていています。

区の木が「榎の木」になっているのもこの木の存在によるものです。

その奥にある旧山崎家の茶室と書院は、発見された「棟札」によりますと、天保12年（1841）の建築で、区内の民家建築としては数少ない江戸時代の建造物です。

この建物の戸襖に描かれている絵は、江古田氷川神社旧社殿（現神楽殿）の格天井に描かれた絵と同一の絵師によるもの、という言い伝えがあり、戸襖の隅に「雪洞」の名を読むことができます。

氷川神社の格天井の絵には落款がないので同一の絵師であるか否か不明です。絵の一枚に「弘化四年（1847年）未夏日」が読み取れ、山崎家茶室・書院が建てられた天保12年より6年後にあたり

ます。

当時名主になって10数年、財も政治手腕も好調であった四代目山崎喜兵衛が、ここに絵師を泊め、無地の戸襖に絵を描かせたと言うことは十分に考えられます。しかしこの絵と神社の絵が同一の絵師であるか否かは不明です。

また、当時の江古田付近は将軍家の鷹狩場で、この近くの東福寺にはそのための休憩所が設けられていました。そのため下調べに来た役人が立ち寄ったのがこの山崎家の茶室と言われていています。その故か寺方に関する古文書、御膳所に関する古文書が多く残されています。

今後、このような歴史ある建造物をいかに区民の方々に公開して行くかが大きな課題になっています。

そのため、未整備となっている庭園の整備や、指定文化財の「榎の木」の養生を行い、最終的には茶室や書院の復元・整備を行うことで、現在の資料館と一体となり、郷土の歴史を探る、ひいては生涯学習の一つの拠点として効果的な利用ができる施設にしたいものです。

文化財よもやま話

理髪店の剃刀

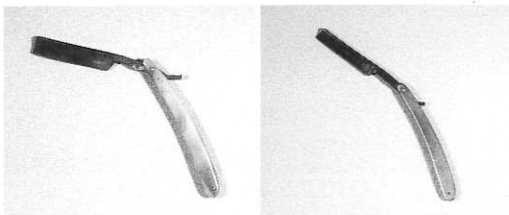
今回は区民の方からご寄贈いただいた資料より、理髪店で用いられていた剃刀を紹介します。

剃刀は、元来、僧侶が頭を剃るために用いる刃物のことを指していました。伝統的な剃刀は和剃刀といい、片刃作りですが、両刃のものもあり、それは西洋剃刀といいます。

理髪店では、和剃刀のことを「日本刀」と呼んでいました。これは主に女性の顔を剃る時に用いられます。和剃刀にはいろいろな形がありますが、髭剃りに使用されるのは小型のもので、長さ約15cmとなっています。和剃刀は西洋剃刀に比べ「ながざれ」しない、つまり埃などのために長い時間切ることが出来ず、使いながらたびたび研がなければならなかったそうです。これは昭和初期頃まで使われていました。

西洋剃刀は昭和初期頃までたいへん入手困難な道具でした。ドイツ・スウェーデン・イギリス・アメリカ製のものが使われていましたが、特にドイツのゾリンゲン製は、高級で使い易かったそうです。写真右は昭和14年に購入されたものですが、一つ買うのに、一月分の給料が無くなったということです。また昭和17年に購入された日本製の西洋剃刀もありますが、刃に「玉杯」と刻まれており、作られた時代が偲ばれます。(写真左)

剃刀は当館所蔵の理髪道具の一部です。理髪道具は開館以来、数度にわたり寄贈され、充実してきたものです。資料館では、これら暮らしの道具を、私たちの生活誌を明らかにする資料として、これまで区民の皆様からご寄贈いただいています。道具は時代の要請や技術の進歩に伴い生みだされ、改良されていきます。そして道具は私たちの生活様式を変化させます。寄贈品は歴史をひもとく貴重な資料となっています。



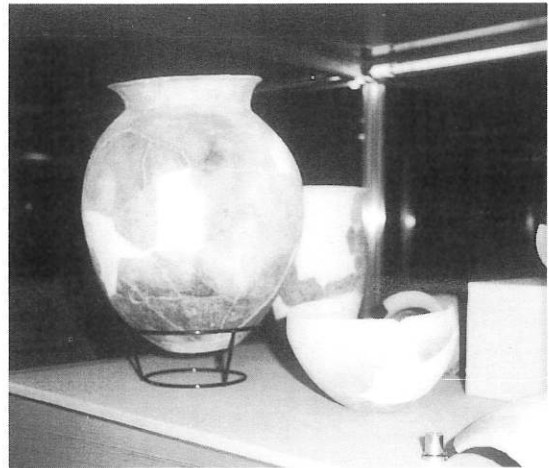
大地に眠る歴史

発掘調査はどうやるか(その4)

前回では、遺跡から出土する木製品の取り上げについてお話ししました。今回は、その他の遺物とその後の処理の仕方について紹介しましょう。

遺物には土器などの土製品のほか木製品・金属製品などがあります。木製品は取り上げた後、状態のよいものは純水(不純物を取り除いた水)に漬けて一時保存します。鉄製品については調湿剤などを用いて湿度を極力避けて保存します。銅製品については意外ですが、純水に漬けて一時保存します。しかし、木製品にしても金属製品にしても、これは一時的な保存方法で最終的には専門的な施設において錆や汚れなどを取り除いた上、表面に薬品等をしみこませて終了となります。

土器・石器については、腐食するものではありませんので、このような科学的な保存は必要ありません。遺跡から取り上げてきた土器・石器はまずブラシを用いて水洗いをいたします。その後、出土した地点や取り上げた番号などを、細い筆を使って一点一点書き込んでいく注記作業をします。



▲復元された土器(白い所は石膏)

ここまでの作業が完了したら、いよいよ復元作業に入ります。類似品を集め根気よく、接着剤を用いて接合していきます。どうしても見つからない部分については石膏を流して補強していきます。

石膏に着色をすれば、展示資料としても用いることができるようになります。(つづく)

事業報告

各種事業経過

1998年7月～9月

事業名	内 容	期 間
企画展	遺跡は語る―大地に眠る歴史 ポスター、チラシで綴る10年の歩み 夏季所蔵名品展 染付の美	7/18～8/30 9/15～ 7～9月中
史跡めぐり	新宿区中井～上高田 講師：鎌田 優氏（中野区企画部広聴課）	9/26
歴史講座	新発見中野区史 「青梅街道をめぐる新知見」講師：角田 茂氏（中央大学大学史編纂課） 「獅子舞の伝承」講師：三隅治雄氏（中野区文化財保護審議会会長） 「中野のむかし話」講師：中島恵子氏（中野区文化財保護審議会委員） 「鷺宮囃子の魅力」講師：吉田純子（当館専門研究員）	7/4 7/11 7/18 7/25
文化財調査	中野駅周辺地区民俗調査 新井・上高田地区民俗調査報告書刊行作業	8/1～ 継続中
埋蔵文化財調査	江古田遺跡（旧国立療養所中野病院跡地）調査報告書刊行作業 寺山西遺跡（ベタニアホーム地区）調査報告書刊行作業 丸山二丁目民有地立会調査 松が丘一丁目民有地立会調査 若宮二丁目民有地立会調査 江古田三丁目民有地確認調査	継続中 継続中 5/28 6/9 7/4・8/6 8/6・7
その他	学芸員実習：5大学6名 郷土学習相談室	7/28～8/9 8/25～27

NEWS

*特別企画展「鉄道にみる中野の歴史」

資料を通じて、中野の鉄道の歴史や知られざるエピソードをご紹介します。SLなどの模型や汐留遺跡の出土品も加えて展示します。ご来場をお待ちしています。11月22日(日)まで。

☆秋季所蔵名品展―墨跡の侘び―

大田南畝(蜀山人)・水戸徳川齊昭・西園寺公望や学者・僧侶などの墨跡の名品を一挙公開。歴史に名をのこした人々の味わいあふれる手跡をぜひこの機会にご堪能ください。年末まで。

#ポスター、チラシで綴る10年の歩み

当資料館のこれまでの歩みを各種展示・事業のポスター類でとどめます。ご記憶に残るものはあるでしょうか。年末まで展示しています。

入館状況

1998年6月～8月（76日間）（人）

一 般	社教団体	学校教育	合 計
6,111	35	63	6,209

寄贈資料一覧

1998年3月29日～8月7日
受入順・敬称略

資料名	点数	氏名
郷土玩具	約600	中川 真弥
古 銭 ほか	一式	蟻 川 健
土 器 片	4	水 上 納
衣 類	2	中 里 多美子
陶製醬油樽	1	菅 沢 弘
理髪道具 ほか	一式	奥 田 詔紀
農 具 ほか	20	金 子 信雄

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

謹 告

当館は10月3日に開館十周年となります。今まで同様、これからもよろしく願いいたします。

発行年月日 1998年10月1日

編集・発行  山崎記念 中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 10中教社第2号)